

状況は(表1)の通り。利
用頻度が高いと思われる生
活環境の差異による生活環
境の必要性が明らかとなつた。
仮設住宅団地周辺環境の
状況は(表1)の通り。

ふくしま連携復興セン
ターガ実施した仮設住宅団
地周辺環境調査報告による
結果が分かった。また、公
共交通機関が整備されてい
ない団地も存在し、団地に
行けないことがない環境にあ
るところが分かった。また、公
共設施や病院などに徒歩で
行くことができる団地は半数
と、福島県内における仮設
住宅団地の約半数が、買い
入ることができる。団地で公共交通
機関を利用しなければなら
ず、団地住民の通院控えが
心配される結果となつた。
（表2）一方で、広
い範囲で、集会場は93%
の仮設住宅団地で設置され
ていた（表2）。一方で、広
い範囲で、集会場は93%
の仮設住宅団地で設置され
ていた（表2）。

福島県仮設住宅調査

「復旧から復興へ」。被災地のフェーズはシフトしているが、「こと農業に関してもまだ復旧すらままならない状況です」と話すのは仙台市の震災復興・地域支援サークルReRoots（リルーツ）で代表を務める庄瀬剛史さん。

農業を再開（復旧）するまでのステップを大まかに区分すると「地中の瓦礫を除く→水路を確保→水田なら塩を抜く→土地を馴らして再開」だという。津波で浸水した地域からは瓦礫が撤去され、一見きれいになつたように見えるが、地中には石や木片、ゴミなどの細かな瓦礫が残つたままだ。これらを取り除き、さらに泥の溜まった側道脇

（表1）仮設住宅団地から生活施設へのアクセス

（表2）仮設住宅団地内のコミュニティ施設設置状況

求められるボランティアの手

農業再開には未だ瓦礫撤去の「復旧」が必要

「復旧から復興へ」。被災地のフェーズはシフトしているが、「こと農業に関してもまだ復旧すらままならない状況です」と話すのは仙台市の震災復興・地域支援サークルReRoots（リルーツ）で代表を務める庄瀬剛史さん。

農業を再開（復旧）するまでのステップを大まかに区分すると「地中の瓦礫を除く→水路を確保→水田なら塩を抜く→土地を馴らして再開」だという。津波で

浸水した地域からは瓦礫が

撤去され、一見きれいになつたように見えるが、地中には石や木片、ゴミなどの細かな瓦礫が残つたままだ。これらを取り除き、さ

らに泥の溜まった側道脇

（表1）仮設住宅団地が半数以上

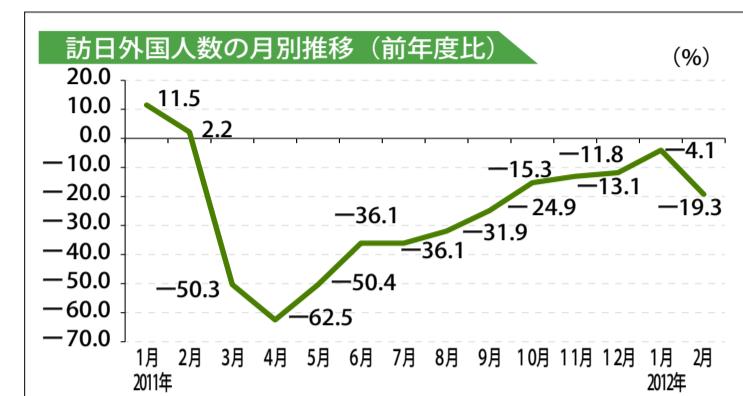
（表2）仮設住宅団地内のコミュニティ施設設置状況

（表1）仮設住宅団地から生活施設へのアクセス

（表2）仮設住宅団地内のコミュニティ施設設置状況

特集

東北復興における観光の役割を考える 震災2年目



また4月には「世界旅行ツーリズム協議会グローバルサミット(通称・観光分野のダボス会議)」が仙台で開催される予定。全世界から集まる国際機関・各政府・メディア等の関係者約1000人に対して東北の復興状況を発信する重要な機会となる。諸外国の動きでは、1月にタイ国政府観光庁と仙台市で「観光に関する相互協力協定」が再締結された。また韓国政府は3月に仙台市内に「日韓観光交流センター」を開設した。海外への情報発信の動きは活発化しているが、現実は易しくない。今年に入つてから以降の訪日外国人数も1月・2月合計で123万人(前年度比11.5%減)と未だに低調。数字として結果が出るまでにまだ時間がかかりそうだ。

「語り部(ヒガ)」の育成、震災体験を試みとして、沿岸市町村で「語り部ガイ道育成研究会」を開催している形で地域主体の観光受け入れ体制を整えると共に、訪問客と地域の交流を促進している。観光庁は第3次補正予算の国内観光活性化緊急対策事業において、新たな旅行需要創出のためにモニターツアーや募集中。



岩手県北観光が行うツアーでは、名物ガイドが自ら被災した体験と未来を語る

さまざまなキャンペーンで観光客を誘致する東北。中でも被害の大きかつた沿岸地域を中心に進められてきたボランティアが動員されてきたが、同時に耳にするようになってきた「スタディツアーや「観察ツアー」がそれだ。宮城県が2月より推進するのは「語り部(ヒガ)」の育成。震災体験を試みとして、沿岸市町村で「語り部ガイ道育成研究会」を開催している形で地域主体の観光受け入れ体制を整えると共に、訪問客と地域の交流を促進している。観光庁は第3次補正予算の国内観光活性化緊急対策事業において、新たな旅行需要創出のためにモニターツアーや募集中。

原発事故損害賠償・自主避難・福島で暮らしていくこと…法律の問題に無料でお答えします。

原発事故の損害賠償や争議解決センターへの和解仲介の方法、自主避難や家のローン、除染費用の問題など。

日々の悩みや疑問に弁護士がお答えします。個別相談にも応じますので、お気軽にお問い合わせください。

ふみだす生活サポートセンター

(委託)公益財団法人 東日本大震災復興支援財団助成事業/運営一般社団法人 ふくしま連携復興センター
福島市太田町17-8 アーバン横山1階 ふくしま連携復興センター内
TEL:024-573-2371 FAX:024-573-2733 E-mail:info@f-renpuku.com
受付時間:10:00~18:00(水曜日、日曜日、祝日を除く)

市民団体・行政・企業をつないで、ふくしまの復興を加速させます。
ふくしま連携復興センター

震災2年目

また4月には「世界旅行ツーリズム協議会グローバルサミット(通称・観光分野のダボス会議)」が仙台で開催される予定。全世界から集まる国際機関・各政府・メディア等の関係者約1000人に対して東北の復興状況を発信する重要な機会となる。諸外国の動きでは、1月にタイ国政府観光庁と仙台市で「観光に関する相互協力協定」が再締結された。また韓国政府は3月に仙台市内に「日韓観光交流センター」を開設する予定。世界から集まる国際機関・各政府・メディア等の関係者約1000人に対して東北の復興状況を発信する重要な機会となる。

「語り部(ヒガ)」の育成、震災体験を試みとして、沿岸市町村で「語り部ガイ道育成研究会」を開催している形で地域主体の観光受け入れ体制を整えると共に、訪問客と地域の交流を促進している。観光庁は第3次補正予算の国内観光活性化緊急対策事業において、新たな旅行需要創出のためにモニターツアーや募集中。

さまざまなキャンペーンで観光客を誘致する東北。中でも被害の大きかつた沿岸地域を中心に進められてきたボランティアが動員されてきたが、同時に耳にするようになってきた「スタディツアーや「観察ツアー」がそれだ。宮城県が2月より推進するのは「語り部(ヒガ)」の育成。震災体験を試みとして、沿岸市町村で「語り部ガイ道育成研究会」を開催している形で地域主体の観光受け入れ体制を整えると共に、訪問客と地域の交流を促進している。観光庁は第3次補正予算の国内観光活性化緊急対策事業において、新たな旅行需要創出のためにモニターツアーや募集中。

さまざまなキャンペーングで観光客を誘致する東北。中でも被害の大きかつた沿岸地域を中心に進められてきたボランティアが動員されてきたが、同時に耳にするようになってきた「スタディツアーや「観察ツアー」がそれだ。宮城県が2月より推進するのは「語り部(ヒガ)」の育成。震災体験を試みとして、沿岸市町村で「語り部ガイ道育成研究会」を開催している形で地域主体の観光受け入れ体制を整えると共に、訪問客と地域の交流を促進している。観光庁は第3次補正予算の国内観光活性化緊急対策事業において、新たな旅行需要創出のためにモニターツアーや募集中。

無料 要予約 定期開催

4月の法律相談会

日時：10日(火)、24日(火)ともに13:30~15:30

場所：ふみだす生活サポートセンター

(福島市太田町17-8 アーバン横山1階 ふくしま連携復興センター内)

アドバイザー：福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク(SAFLAN)弁護士

申込：左記の電話・ファックス・Eメールにてお申込みください。

〒960-8068 福島県福島市太田町17-8 アーバン横山1階
TEL:024-573-2732 FAX:024-573-2733 E-mail:fukushimarenpuku@gmail.com
URL http://f-renpuku.com/

本格化する観光復興の展望

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

キャンペーン、営業再開、リニューアルが目白押し

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

キャンペーン、営業再開、リニューアルが目白押し

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

3月18日、観光庁と民間企業が共同で推進する「東北観光博」が開幕した。東北6県全域を博覧会会場と見立て、主要観光地域28ヶ所を「ゾーン」として設定。各地域で独自の観光コンテンツを提供して観光客を迎える。目標したのは地域と観光客のふれあいの創出。各ゾーンの集客拠点となる鉄道駅には「東北・旅のサロ」と、地域の商店街などには「旅の駅」が設置され、常駐する地域観光案内人が観光客に対して

官民の主な取り組み

震災後、生活再建や1次・2次産業復興の陰で目立った動きの少なかった東北の観光産業だが、震災から1年が経過し、少しづつ明るいニュースが聞こえるようになった。官民一体となって進む観光復興への取り組みを追いつづけ、その展望を探った。



う観光企画が「いわてデスマニエーション」キャンペーンを実施するなど、各県において観光客獲得へ向けた動きが具体化している。民間でも、より業務に影響が出ている。震災の被害に影響を受けた観光施設の営業再開や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日からポートが登録された平泉や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日から

利害関係者に対する対応を実施するなど、各種特典を提供する「ふくしまからありがとう」というキャッチフレーズを実施するなど、各県において観光客獲得へ向けた動きが具体化している。民間でも、より業務に影響が出ている。震災の被害に影響を受けた観光施設の営業再開や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日から

利害関係者に対する対応を実施するなど、各種特典を提供する「ふくしまからありがとう」というキャッチフレーズを実施するなど、各県において観光客獲得へ向けた動きが具体化している。民間でも、より業務に影響が出ている。震災の被害に影響を受けた観光施設の営業再開や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日から

利害関係者に対する対応を実施するなど、各種特典を提供する「ふくしまからありがとう」というキャッチフレーズを実施するなど、各県において観光客獲得へ向けた動きが具体化している。民間でも、より業務に影響が出ている。震災の被害に影響を受けた観光施設の営業再開や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日から

利害関係者に対する対応を実施するなど、各種特典を提供する「ふくしまからありがとう」というキャッチフレーズを実施するなど、各県において観光客獲得へ向けた動きが具体化している。民間でも、より業務に影響が出ている。震災の被害に影響を受けた観光施設の営業再開や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日から

利害関係者に対する対応を実施するなど、各種特典を提供する「ふくしまからありがとう」というキャッチフレーズを実施するなど、各県において観光客獲得へ向けた動きが具体化している。民間でも、より業務に影響が出ている。震災の被害に影響を受けた観光施設の営業再開や、東北6県の祭りが結集する東北六魂祭(5月26日・27日)に盛岡で開催される。昨年6月30日までの3ヶ月間、全国の旅行会社等の観光関係団体が丸となって岩手県の観光PRを行った。同年4月1日から

被災地と岩手県内外の支援団体を繋ぐ役割を担っています。

- ✓ 行政・NPOとの定例ミーティング
- ✓ 県外の支援団体と連携の場を設定
- ✓ 支援団体のマッチング
- ✓ NPO法人設立・運営・助成金申請支援
- ✓ コミュニティ支援
- ✓ 仮設受託環境アセスメント調査
- ✓ 新しい公共支援事業

特定非営利活動法人 いわて連携復興センター 加盟団体
いわてNPOフォーラム21(巻町市)
カシオペア連邦地域づくりサポート(二戸市)
やませデザイン会議(久慈市)
いわて地域づくり支援センター(花巻市)
風・波デザイン(紫波町)
@リースNPOサポートセンター(釜石市)
花巻市民活動支援センター(花巻市)
いわてNPO-NETサポート(北上市)
レスバイトハウス・ハンズ(一関市)
夢ネット大船渡(大船渡市)
平成23年12月1日時点

PICK UP NPO!

ピックアップNPO④

NPO法人 まちづくり・ぐるっとおおつち

団体概要: 岩手県大槌町で、被災前は福島厚生の促進、現在は仮設・在宅生活者の雇用促進等を中心して心理的・社会的サポートを提供する。



イベントで子供たちに加わる千田さん

震災後、政府や自治体の復興ビジョンや復興計画に組み込まれたスマートシティ構想。震災前より良き未来の具体策のひとつとして期待は高く、官民により取り組みが推進されている。

スマートシティの中核をなすのは、太陽光や風力

によって、休止または病床数を縮小して再開せざるを得ない状況。福島県双葉郡8町村・南相馬市などの相双医療圏については、他沿岸部地域は震災前から相双医療圏について、他地域よりも著しく再開が遅れている。

医師不足の課題を抱えていたが、震災後の規模・機能

をなすのは、太陽光や風力

復興プロダクト

3



ハートブローチ

東北支援プロジェクト EAST LOOP

前を向いて生きる力に

「一方的ではない、売る人と買う人の思いが循環する支援がしたかった」と語る

途上国のフェアトレードを手掛けている。仕事をすることで感謝され頼られることが、時として現金以上に人に力を与えることを知っていた。

自分が少なく、スピードが要求されず、完成形を見られるものがいいと、たどり着いたのが編み物。地元で活躍するNPOに力を借り、仮設住宅などで暮らす人たちに広めていった。「地域のこと

代表の高津さん。支援プロジェクト EAST LOOP を運営する株式会社福市は、発展

ます。私たち、企画、デザインと販売に注力と役割分担し、それぞれが100%の力を出せる工夫をしている。

商品台紙の裏面には作り手さんのニックネームが手書きされている。購入した人はその名前宛にFacebookでコメントを寄せ、それを見た作り手さんは希望と喜びを胸に仕事に励む。ここに確かに、温かな思いの循環が生まれている。

■ハートブローチ(全5色) 税抜き800円(半分は作り手さんの収入に)/EASTLOOP問い合わせホームページ <http://www.east-loop.jp>



春は、来ましたか?

震災にも「落ちなかった」石巻の釣石。多くの受験生がこの石に願掛けに訪れた。

ケセンロックフェス復活!

地元の魅力と被災地の今を伝えたい

7月開催

ケセンロックフェスティバルが今夏、復活を遂げる。これは岩手県南部、「気仙地方」と呼ばれる大船渡市・陸前高田市・住田町の若手有志が立ち上げた野外音楽イベント。初開催は2009年7月。翌年も開催され、どちらも県内外から2千500人あまりを动员した。3回目にあたる昨年は震災の影響で中止に。無期限の延期も検討されたが、年越しの復活が決まった。

開催は7月22日(日)、場所は大船渡市と陸前高田

公園のイベント広場。ASIAN BRAHMANをはじめ、若者に人気の高い計18組のアーティストが出演予定だ。

今回は初の試みとして前夜祭ともいえる「キャンプナイト」を開催。来場者は会場内にテントを張り、ライブはもちろん地元の郷土芸能と郷土食、そして大自然と星空の美しさを体感することができます。

実行委員会は、オフィシャルブログで語りかける。多くの来場者を県外から呼び込み、地元の若者が今まで感じている郷土芸能や食、自然の魅力を伝え、被災地の今を見てもらう。このイベントが果たすものは、集客という地域活性化には留まらないだろう。

HH (<http://www.kesenrockfes.com/>)

イベント・インフォメーション

●しおがま・みなと復興市場 復興感謝祭

【日時】2012年4月14日(土)、15日(日)10:00~15:00【会場】しおがま・みなと復興市場前広場(マリンゲート塩釜となり)【内容】支援や励ましへの感謝の気持ちをこめ、「マリンゲート塩釜」と、隣接する「しおがま・みなと復興市場」で復興感謝祭を開催。仮設店舗である「しおがま・みなと復興市場」に入居する16店舗が、工夫を凝らした商品を販売。先着でかに汁やマグロかま焼きの無料配布も。【主催】しおがま・みなと復興市場運営振興会【共催】マリンゲート塩釜事業振興会【お問い合わせ】①佐藤鮮魚店 Tel:022(362)2402②丸文松島汽船㈱ Tel:022(365)3611【URL】<http://cocomiyagi.jp/staffblog/2012/04/-2012414-15.html>

●復興!ふくしま!! 第9回時空の路ヒルクライム in 会津

【日時】平成24年5月20日(日)【コース】県道下郷会津本郷線(大内宿こぶしライン)距離13.5km、高低差600m【申し込み】郵送・電話・またはインターネットで4月17日必着【参加料】一般6,000円 中学生3,000円 団体戦1チーム3,000円(傷害保険料、参加記念品含む)【主催】時空の路ヒルクライム会津実行委員会【お問い合わせ】時空の路ヒルクライム会津実行委員会事務局(福島民友新聞社本社事業部内) Tel:024(523)1334【URL】<http://www.minyu-net.com/event/jigyo12/hillclime.html>

*イベント情報随時募集しています。
掲載ご希望の方は press@h-u-g.jpまで。

「東北復興新聞」を一緒につくりませんか

東北復興新聞では、被災地で復興に取り組むNPO等団体、行政担当者など、復興の担い手の方々に役立つ情報を随时募集しています。「オピニオン」への投稿、「ピックアップNPO」「復興のきら星」などへの推薦も大歓迎です。感想やご意見もぜひお寄せください。

また、記事のリサーチ、取材、執筆、編集、デザインなど、新聞の制作をお手伝いくださるスタッフも募集中です。いずれもinfo@h-u-g.jpまで。お待ちしています。

赤い羽根共同募金が実施する「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の第6次助成先が決まりました。有難いことに、この東北復興新聞も助成対象となつた。前回は「実績不十分」で見送られ、一同で肩を落としたが、しつこく事務局に新聞を届け続けた成 果が、無事採択していただ いた。喜びよりも、これまで続けられるとほつとしましたのが正直な感想だ。

資源を分配するのはいつもでも難しい。人から預かつたモノであればなおさらだ。これまで行政や企業がその役割を果たしてきたが、震災後の動きはその枠を超えたスピードと規模だった。テクノロジーの恩恵を受け、寄付サイトを通じて多額の支援が短期間で集まり、twitterを始めとするソーシャルメディアが、情報は直接流通することを証明した。しかし、新しいテクノロジーに裏打ちされた量とスピードは、同じ規模感で失われる。新聞を、紙で届けようと思ったのは、長丁場には古いテクノロジーが向いていると思ったからだ。先日、岩手で心に染み入る言葉を聞いた。「取り合つたら足りないが、分かち合つたら余る」。震災後の日本を表す言葉ではないだろうか。取り合う生活ではなく、分かち合う人生を歩みたいと、最近思う。(T)



<http://h-u-g.jp/>

HijG

伝える。変わる。手をつなぐ。

NPO法人 HUG

Projects

東北復興新聞の発行による中間支援プロジェクト
メディア連携による東北スタディツアープロジェクト
大槌町卒業アルバム復興支援プロジェクト and more...

Our Mission

HUGは、世の中を良くするために世界中で頑張っている人や団体を、情報発信等のコミュニケーションの分野で手助けする中間支援組織です。素晴らしい人や取り組みをHUGが媒介となって世の中へ届けることで、人と人が笑顔でつながり助け合う社会の創造を目指します。

About Us

NPO法人 HUG
東京都渋谷区代々木2-10-9-8F
代表理事: 木間勇輝
理事: 菊池淳一郎、金田喜人
E-mail: info@h-u-g.jp